

地域ケア連携をすすめる会
第12回シンポジウム



変貌する山谷から考える

ケア空間の未来

住まいと地域のつながりをどう支えるか

登壇者：岡部明子・祐成保志

マンションやインバウンド向けのゲストハウスの増加、商業施設の計画——山谷のまちはいま、大きく変わりつつあります。これまで地域でのゆるやかな支え合いが山谷で暮らす人々の生活を支えてきましたが、再開発が進むなか、こうしたインフォーマルネットはこれからも維持できるのでしょうか。本シンポジウムでは、建築学・社会学の視点を手がかりにしつつ、これからのまちのあり方を考えます。

2026.6.27 SAT 13:30~

参加費：1,000円

台東区立竜泉福祉センターいきいきてらす
5階ホール
台東区竜泉2-10-5



下記のフォーム、QRコードより申し込みください。
<https://forms.gle/gvx2SWtpqG1sHAiE6>

変貌する山谷から考える

ケア空間の未来 住まいと地域のつながりをどう支えるか

開催概要

日時 2026年6月27日(土) 13:30~17:00 (開場13:00)
場所 台東区立竜泉福祉センターいきいきてらす5階ホール
参加費 1,000円

プログラム

第1部 報告「意思決定支援を支える地域ケア連携」

山谷の現状や支援の実践から、山谷地域での支え合いの実態を共有します。

瀧脇 憲 (居住支援全国ネットワーク/本会運営副委員長)

鶴澤喜恵子 (訪問看護ステーションコスモス/本会事務局)

第2部 報告「住まい・コモンズ・自治」

住まいと人との関係、地域のなかでの支え合いを、建築学・社会学の視点から、「コモンズ(地域で共有される支え合いの仕組み)」や「自治(住民同士で支える力)」といった考え方にも触れながら捉え直します。

岡部明子 (東京大学大学院工学系研究科 教授)

祐成保志 (東京大学大学院人文社会系研究科 教授)

第3部 フロアディスカッション

山谷の変化を踏まえ、これからの地域での支え合いやまちづくりについて考えます。

登壇者プロフィール

岡部明子 (おかべ あきこ)

東京大学卒業後、磯崎新アトリエ(バルセロナ)を経て堀正人とHori & Okabe, architectsを設立。

千葉大学教授を経て2015年より東京大学教授。ジャカルタのスラムをフィールドに住民主体でセルフビルドによる環境改善を目指すプロジェクトを実施。

著書に『バルセロナ』(中公新書2010)、『サステイナブルシティ-EUの地域・環境戦略』(学芸出版社2003)ほか。

祐成保志 (すけなり やすし)

2025年4月より東京大学教授。

専門はコミュニティと住まいの社会学。社会調査史の把握と経験的調査の実践を通じて、コミュニティ研究の方法を再構成することを目指している。

著書は『〈住宅〉の歴史社会学』(新曜社2008)。共編著に『コミュニティの社会学』(有斐閣2023)、訳書に『ハウジングと福祉国家』(新曜社2014)ほか。

参加申し込み・お問い合わせ

下の参加フォーム、右のQRコードより申し込みください。

<https://forms.gle/gvx2SWtpqG1sHAiE6>

お問い合わせ

地域ケア連携をすすめる会事務局担当NPO法人山友会油井(ゆい)

TEL 070-8536-6205 Mail community.service.jimukyoku@gmail.com

